



— 教科化の課題と授業実践 —



三重県教育文化研究所
「道徳教育」課題研究委員会 編

はじめに

2018年度から、小学校では「特別の教科 道徳」が本格実施されています。これまで道徳が教科になるという点については、様々な議論があり問題点も数々挙げられていました。そのような中であって、時間の経過とともに、多くの小学校では授業の工夫や評価の研究が行われ、教科としての道徳がすすめられています。

道徳の教科化を懸念する声の中には、「道徳の教科化に限らず、学校現場では問題があるとわかっていることも、やるからには・・・と、やり方をどうするかだけの議論になってしまう」という指摘があります。矢継ぎ早な教育改革の中で、何事も受け入れざるを得ず、方法論に走ってしまいがちな教職員への警鐘も、現状としてはうなずけるものがあります。

日頃の多忙を極める学校業務の中で、様々な課題も既にどこかへ吹き飛び、日々の授業に追われるということもあるかも知れません。その授業も、教科書教材の読解や価値の確認だけに終わってしまっているということも、少なくはないでしょう。

そのような現状も踏まえ、第3期の道徳課題研究委員会は、自分たちが陥りがちな課題を検証しながら、教科としての道徳に向きあっていこうと考えました。

わたしたちは、まずは「教育改革の真ただ中に置かれている」のは子どもたちである、という視点に立たなければと考えています。子どもたちの学びを保障することや、豊かな学びをどう創っていくかということ、何よりも一番に考えようとしています。

この一年、問題点を確認し、意識しながら試行錯誤を繰り返し、授業づくりに奮闘してきました。とりわけ、教材については、既刊『はじめの道徳』同様、自主教材ではなく、あえて教科書教材にこだわりました。それは、道徳の教科化と教科書が切り離せない関係にあると思うからです。

そして、『はじめの道徳』ではまだ十分意識できなかった、「テーマやめあての提示がもたらすこと」や「評価につながる行動を求めてしまう落とし穴」など、さまざまな授業を通してこそわかる、教科としての道徳の具体的な問題点も、明確にしようとしてきました。

課題を一つ一つ拾い上げながらすすむ研究は、「特別の教科 道徳」の時間を豊かな学びにつなげるための努力です。さらに、学校教育のあり方として、道徳の教科化という施策がどうであったのか、今後の検証につなげられればと思っています。

授業実践、授業研究は尽きることがありません。まだまだ道半ばです。

今回の『つながる 道徳』が、少しでもみなさまのお役にたてれば幸いです。

2019年6月1日

三重県教育文化研究所 事務局

もくじ



 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1



1. 道徳の授業展開を考える時の5つの要素・・・・・・・・・・・・ 3

- ア 発達段階と内容項目を考える
ー実態を踏まえない授業にならないためにー
- イ めあての提示を考えるー価値の押し付けにならないためにー
- ウ 道徳を国語のちがいを考える
ー読み取りに終始し、価値確認だけで終わらせないためにー
- エ 授業の山場と終末を考える
ー自分を振り返ることも深まりもない授業にしないためにー
- オ 評価について考える
ー評価のための授業にしないためにー



2. 授業の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14



3. 道徳教科化の課題と授業実践 ーまとめにかえてー・・・・・・ 31



編集後記、「道徳」教育課題研究委員会・・・・・・・・・・・・ 36